



ベネッセi-キャリア主催
「初年次教育に関する研究会」

KSU基盤教育における初年次教育

平成27年11月14日(土)
14:00～17:00

九州産業大学 教務部
一ノ瀬 大(いちのせ だい)

1. 九州産業大学の紹介
2. KSU基盤教育導入の背景
3. KSU基盤教育とは
4. 実践事例(国語科目を中心として)
5. KSU基盤教育の学修成果と今後の展望

九州産業大学の紹介

福岡県福岡市東区に位置する九産大



福岡市の人口
約150万人
東区の人口
約30万人



九州産業大学の紹介

大学の概要



8学部20学科

※2016年度から、2学科プラス

在籍数 10,779名

(2015.4.1現在)

入学定員 2,675名

国際文化学科
日本文化学科
臨床心理学科

国際文
化学部

経済
学部

経済学科昼間主コース
経済学科夜間主コース

商学部
第一部

商学科
観光産業学科

産学一如
(建学の理想)

芸術
学部

美術学科
デザイン学科
写真映像学科

商学部
第二部

商学科

工学部

バイオロボティクス学科
機械工学科
電気情報工学科
物質生命化学科
都市基盤デザイン工学科
建築学科
住居・インテリア設計学科

情報科学科

情報
科学部

経営
学部

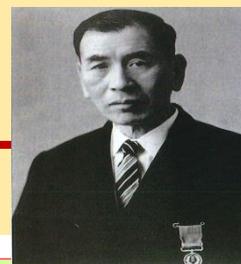
国際経営学科
産業経営学科



九州産業大学の紹介

大学の概要

今年、創立55周年



中村産業学園創設者 中村 治四郎先生

1960年(昭和35年)4月開学

創設者 中村治四郎(1907年～1974年)

建学の理想

産学一如

(さんがくいちによ)

産業と大学は車の両輪のように一体となって、時々々の社会のニーズを満たすべきである。

建学の理念

「市民的自覚と中道精神の振興」及び「実践的な学風の確立」

ビジョン

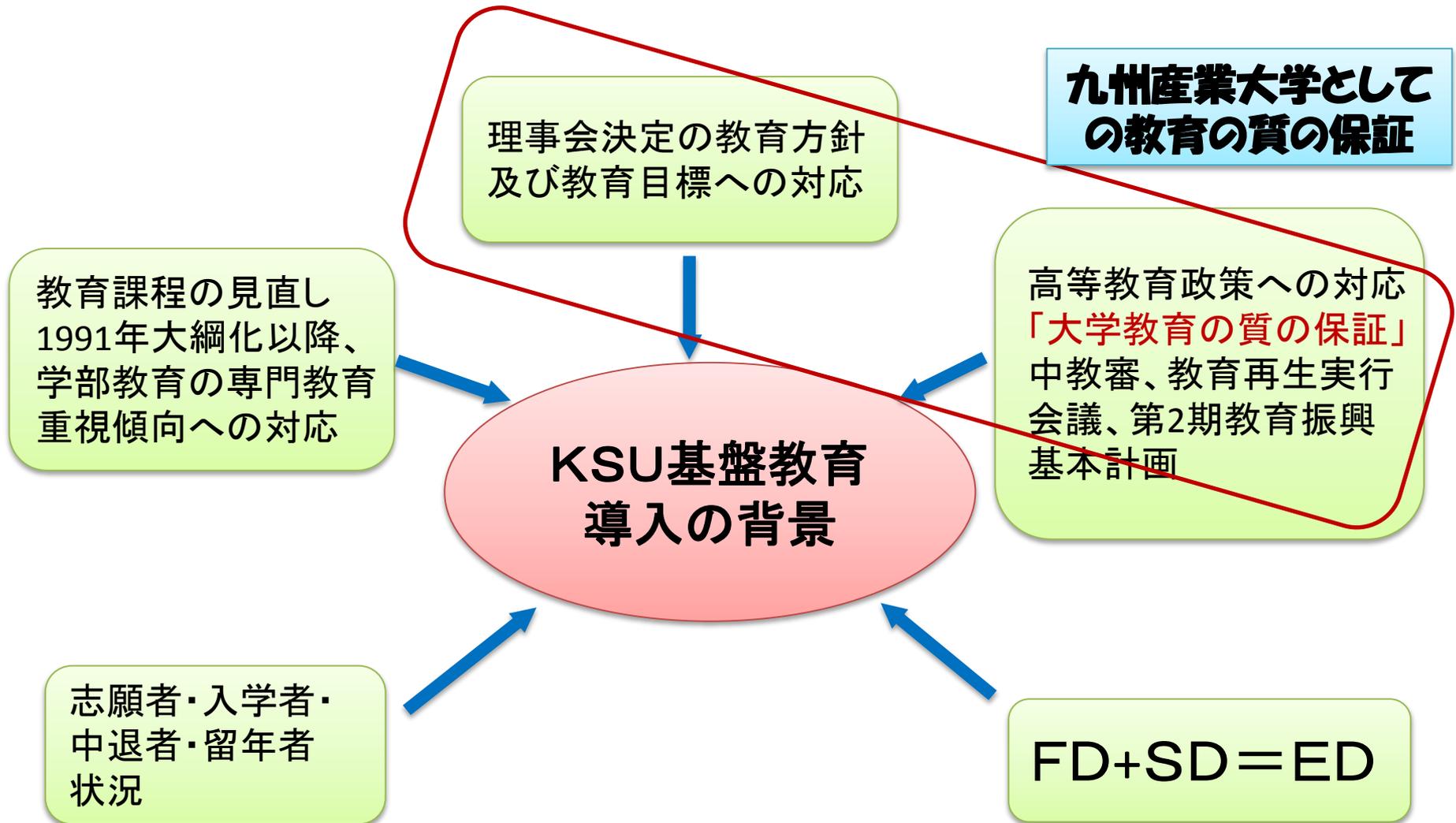
九州産業大学は、広く産業界の期待に応えられる
「実践力」「熱意」「豊かな人間性」を持った人材を輩出する大学になります。

教育目標

「深い教養に裏打ちされたグローバル化に対応できる心身共に健全な人間教育」

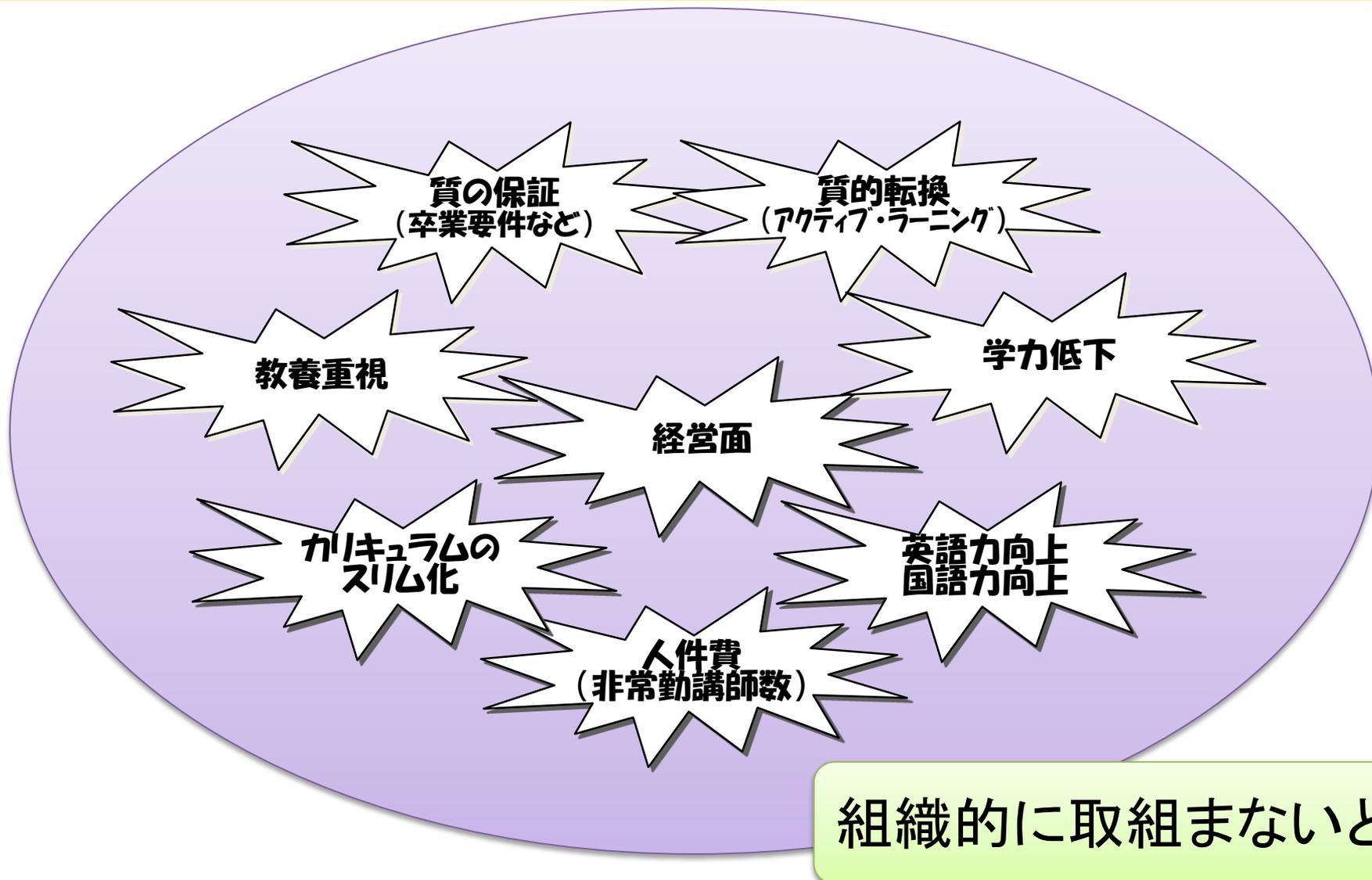
KSU基盤教育説明の前に

導入の背景



KSU基盤教育導入の背景

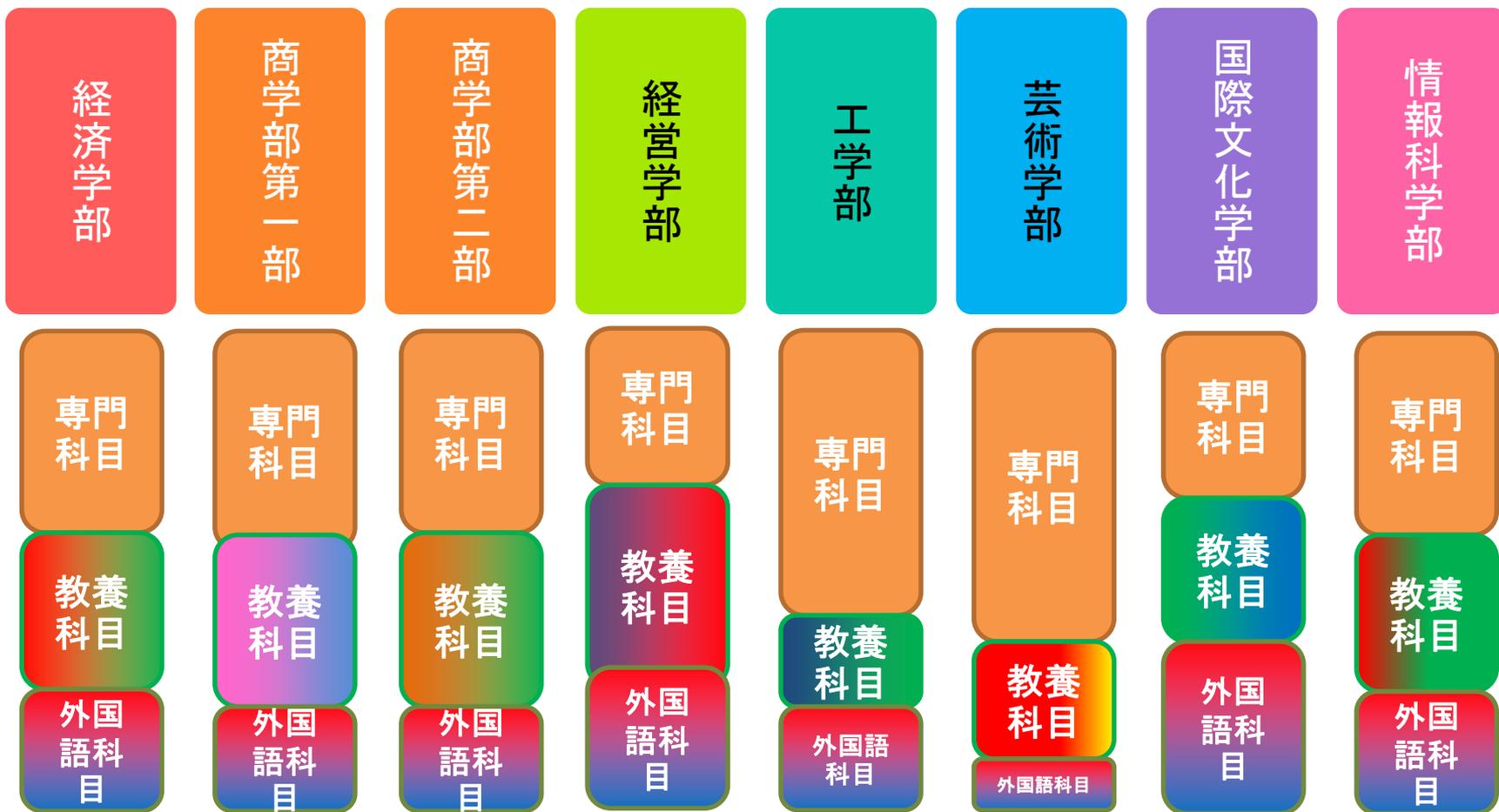
もう少し具体的に説明しますと・・・。



KSU基盤教育導入の背景

卒業要件及びカリキュラムがバラバラ・・・。

建学の理想・理念、教育目標等…



教育方針や教育目標は、全学的なものであるのに、カリキュラムがバラバラ過ぎる・・・。
全学的かつ組織的な最低限の共通の卒業要件やカリキュラムもない・・・。

KSU基盤教育導入の背景

教養科目（KSU基盤教育導入前）

基礎 教育 科目	導入科目		基礎ゼミナールなど
	教養科目	人文科学科目	哲学の世界、倫理学、日本の文学、アジアの文学など
		社会科学科目	法学、日本国憲法、現代の経済、現代の経営など
		自然科学科目	生物の世界、動物行動学、化学の世界、物理の世界など
		芸術科目	アートスクール、音楽概論、世界の美術館など
		総合科目	人権・同和問題、生涯学習、実用国語、教養講座など
	キャリア科目		キャリア形成基礎論、キャリア形成戦略など
	心と身体の健康科目		スポーツ科学演習、健康学など

全科目数85科目！！

さらに、設置している科目は各学部によってバラバラ。

大学としての教育方針を伝えることなく、学生が自由に履修する。

結果的に単位が修得しやすい科目（単位修得率が高い科目）、自分が好きな科目に履修者が集中する事態に……。



教育目標や人材育成目標といった方針に沿った科目配置が急務に……

KSU基盤教育とは

簡潔に言うと、「九産大の共通教育」

KSU基盤教育とは、

社会のどこでも活躍できる(通用する)

『**基礎力**』を培うプログラムです。

九州産業大学に入学した学生



全員

2年
間

全学
共通

特色

社会人基礎力
の基盤づくり

全学共通開
講(学部横断
クラス編成)

KSU
基盤教育

能力別クラス
による英語教
育(4年一貫)

基礎教育科目
に重点(コア)
科目を設定

KSU基盤教育とは

九州産業大学の教育課程

教養科目

(基礎教育科目)

- 広く様々な学問を学び人間力を養う

外国語科目

- 英語・英語会話及びその他の外国語科目を学ぶ

専門科目

- 特定の分野について専門的に学ぶ(学部によって異なる)

卒業(124単位以上)

K S U基盤教育科目とは

教養科目
(基礎教育科目)
12単位以上

外国語科目
英語
8単位以上

専門基礎科目
(1年次・2年次配
当の専門科目)

全学部・全学科52単位以上
(卒業要件124単位のうち)
52単位～76単位

配当年次は1～2年 = 2年間は全学部ともに同じ形(基盤)

KSU基盤教育とは

KSU基盤教育科目とは

具体的には・・・

教養科目

(基礎教育科目)

(12単位以上)

全学共通開講

- 国語、数学、歴史、憲法、政治、キャリア形成、スポーツ科学演習、実践力育成、課題解決演習など

外国語科目

(英語8単位以上)

全学共通開講

- 英語、英語会話、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語など(英語以外は選択制)

専門基礎科目

- 学部によって異なります。例えば、経済学部では、経済学入門、経済史、経済数学、経済政策などです。

全学共通開講とは、学部に関係なく**様々な学部**の**学生**と受講します。

KSU基盤教育とは

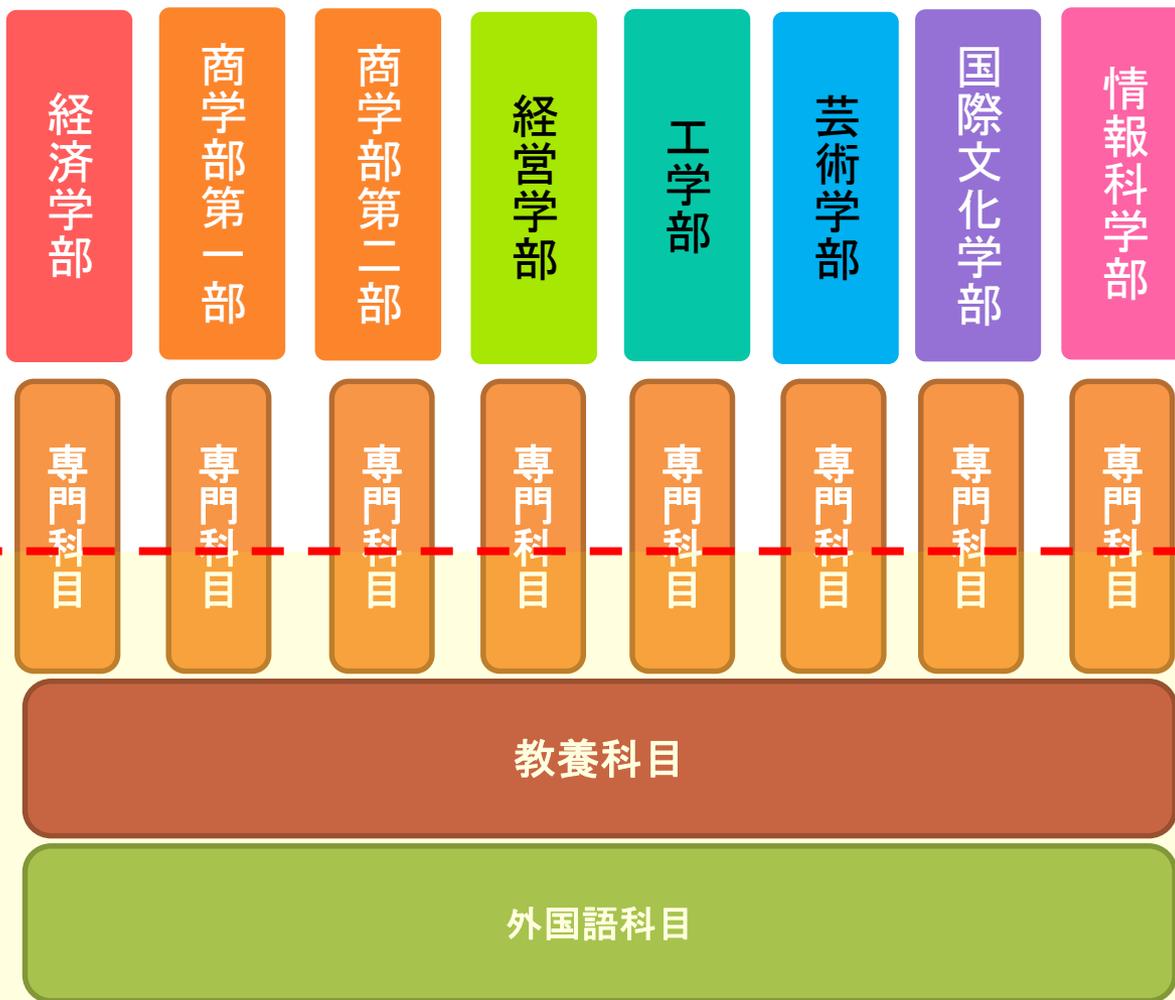
イメージ図



KSU基盤教育とは

共通教育としての卒業要件の構築に向けて

建学の理想・理念、教育目標等…



九産大生としての
「基盤」を形成する
→KSU基盤教育

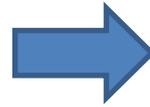
大学の教育目標
＝各学部の教育「基盤」

専門科目の基礎的な部分
教養科目
外国語科目を
「基盤」として位置付け。

KSU基盤教育とは

教養科目のスリム化（科目数を減少）

基礎 教育 科目	導入科目 8		基礎ゼミナールなど
	教養科目 58	人文科学科目	哲学の世界、倫理学、日本の文学、アジアの文学など
		社会科学科目	法学、日本国憲法、現代の経済、現代の経営など
		自然科学科目	生物の世界、動物行動学、化学の世界、物理の世界など
		芸術科目	アートスクール、音楽概論、世界の美術館など
	総合科目	人権・同和問題、生涯学習、実用国語、教養講座など	
	キャリア科目 15	キャリア形成基礎論、キャリア形成戦略など	
心と身体の健康科目 4	スポーツ科学演習、健康学など		



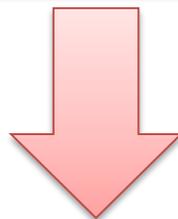
基礎 教育 科目	導入科目 6	基礎ゼミナールなど
	実践科目 21	キャリア形成基礎論、キャリア形成戦略、実用国語、数理的教養、九産大力など
	教養科目 28	日本の歴史、世界の歴史、法学、日本国憲法、現代の政治、倫理学、文学の世界、哲学の世界など
	心と身体の健康科目 3	スポーツ科学演習、健康学など

85

58

コア科目の設置

教養科目(基礎教育科目)には、「九州産業大学の学生として、現代社会の問題点に直結した科目を学んでほしい」との理由で、**コア科目**を設置しています。(コア科目は履修を推奨する科目です)



コア科目とは、**実用国語、教理的教養、日本の歴史、世界の歴史、法学、日本国憲法、現代の政治、キャリア形成基礎論、キャリア開発論、キャリア形成戦略、スポーツ科学演習**などです。

KSU基盤教育とは

全学共通開講

科目	クラス	期別	学部	曜日	時限	履修者
日本の歴史	1	前	経済	木	3	94
	2	前	商	水	3	209
	3	前	経営	木	2	223
	4	前	工・情報	月	4	138
	5	前	国文	火	5	68

前期	月	火	水	木	金
1限					
2限				経営 223名	
3限			商 209名	経済 94名	
4限	工・情 138名				
5限		国文 68名			

従 来

各学部ともに日本の歴史を履修できるチャンスは前期に1回しかない。

→時間割が他の科目と重なると履修できない。

まだ学生を受け入れる余地があるにもかかわらず、他の学部の学生が履修したくてもできない。

→他の科目を履修する

履修環境、教室環境、FDの観点からも、もったいないことが多い。

KSU基盤教育とは

全学共通開講のメリット

科目	クラス	期別	学部	曜日	時限	履修者
★日本の歴史	1	前	全学部	月	3	130
	2	前		火	2	130
	3	前		火	3	130
	4	前		水	4	130
	5	前		木	1	130
	6	前		木	5	130
	7	前		金	5	130

前期	月	火	水	木	金
1限					
2限		全 130名			
3限	全 130名	全 130名			
4限			全 130名		
5限				全 130名	全 130名

コア科目として開講クラスを増やし、全学開講することで、日本の歴史を多くの学生が履修できるチャンスが増えます。（但し、履修者の上限数は、授業科目、教室の規模等を勘案して決める。）

履修登録の促進が出来るのみならず、多人数講義の解消もできます。

KSU基盤教育とは

教養科目の履修状況

現状

ヨーロッパの歴史
欧米の文学
世界の地理と歴史
世界の美術館Ⅰ
世界の美術館Ⅱ
音楽概論Ⅰ



A君

スポーツ科学演習A
スポーツ科学演習B
健康学
心の健康
キャリア開発論
生涯学習



B君

KSU基盤教育導入前



★世界の歴史
★日本の歴史
★日本国憲法
★実用国語Ⅰ
★スポーツ科学演習
★キャリア開発論



A君

★世界の歴史
★日本の歴史
★法学
★実用国語Ⅱ
★スポーツ科学演習
★キャリア形成戦略



B君

KSU基盤教育
導入後

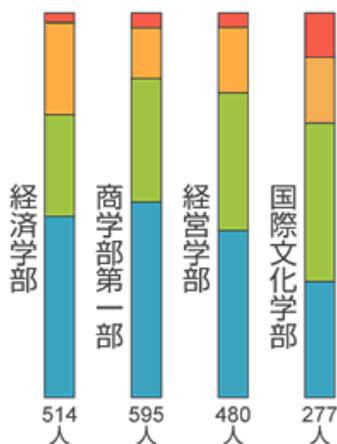
実践事例①

外国語科目（英語は、全学共通及び能力別クラス編成）

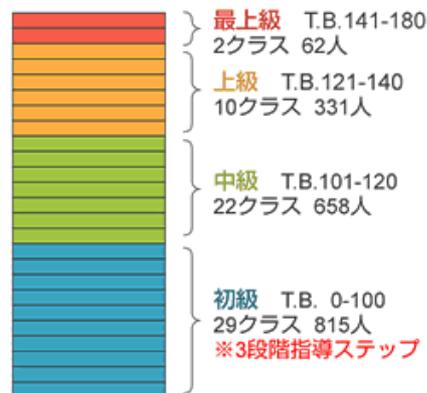
■ 少人数能力別クラス編成

入学直後のTOEIC Bridgeテストによる能力別クラス編成

従来型のクラス編成



九産大型、学部横断の能力別クラス



クラス分けスコア例

従来型	九産大型	
168-132	174-146	5 クラス
	144-140	
	138-136	
	136-134	
130-120	132-130	6 クラス
	130-130	
	130-130	
	128-128	
	128-126	
	126-124	
	124-124	
	124-124	
120-116	122-122	7 クラス
	122-122	
	120-120	
	120-120	
	120-118	
	118-118	
理系	118-116	20 クラス
	116-116	
	116-116	
	116-114	
芸術系		11クラス

2007年特色GPに選定！

英語8単位以上：全員

今までは、各学部によって英語の卒業要件が異なっていた。

経済学部・・・8単位以上
経営学部・・・6単位以上
芸術学部・・・4単位以上

読む・書く・聞く・話す
4能力を意識！！

※最低、2年間は学ぶように。

■ レベルに応じた指導 英語・英語会話

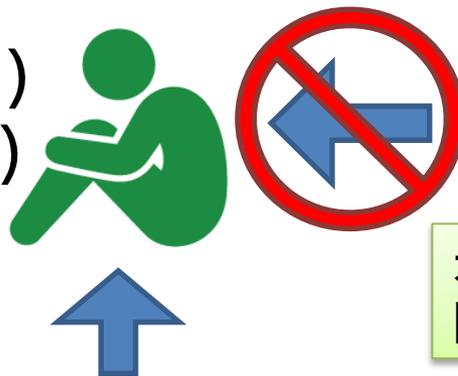
最上級	レベル毎の指導ガイドライン
上級	英語：日本語教員によるリーディングパートの強化
中級	英語会話：ネイティブ教員によるリスニングパートの強化
初級	オリジナル教科書、e-learning課題、ミニテストによる学習確認

英語科目の授業後のテスト結果
111点以上23.4%→56.0%

実践事例③

国語の低学力層に対するプログラム

- ・国語が苦手(嫌い)
- ・文章を読むのが苦手(嫌い)
- ・文章を書くのが苦手(嫌い)
- ・国語は履修したくない



・強制的に国語科目を履修させても、さほど効果は上がらないと感じていた。

オリジナルプログラムの開発が急務であった。

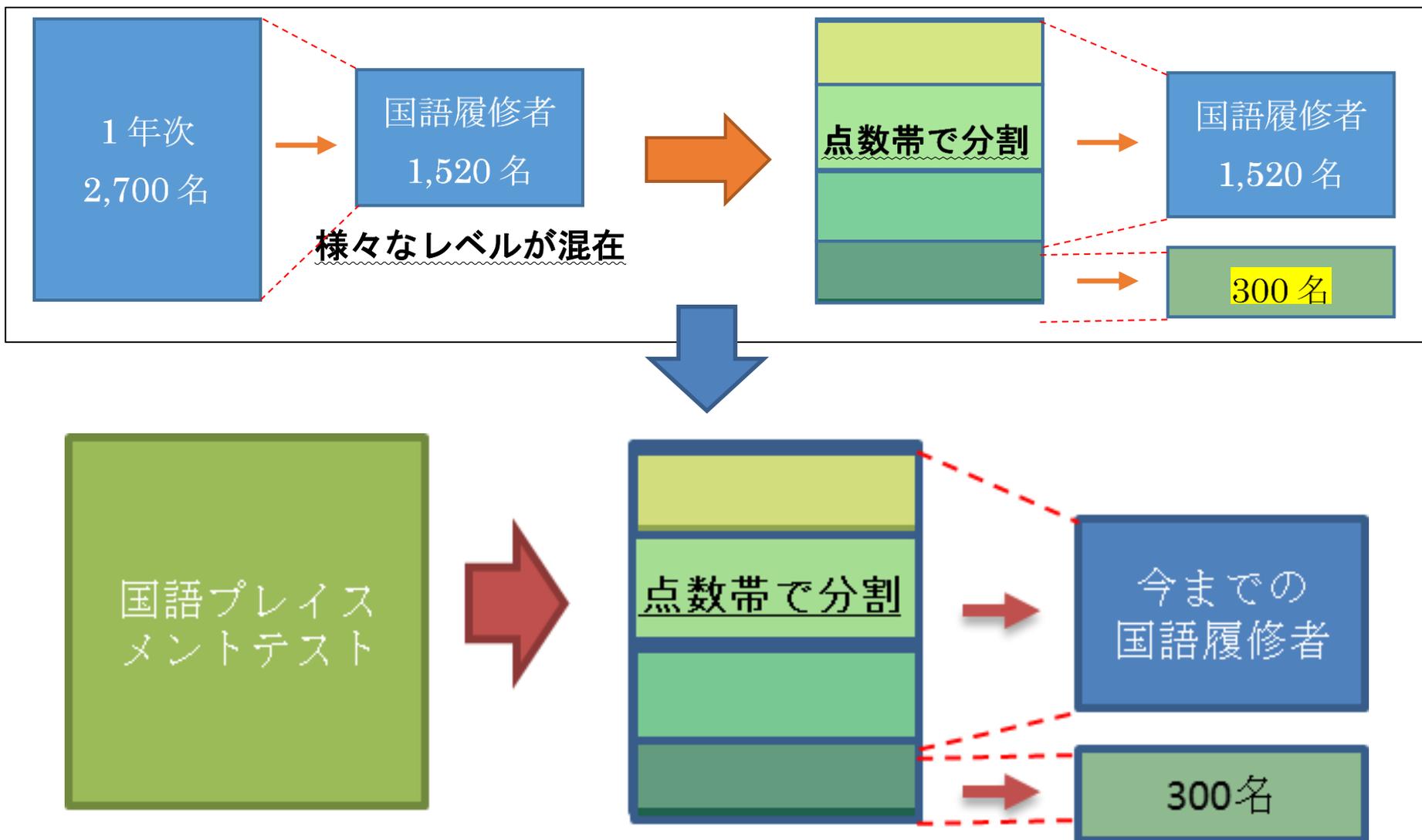
オリジナルプログラムの開発ポイント

- ・アクティブ・ラーニング形式(楽しく学ぶ国語)
- ・ライティングとコミュニケーションをキーワード
(ライティングばかりでなく、毎回、コミュニケーションを入れながらの授業)
- ・大学で必要となる基礎的なレポート作成力

○パッケージではなく、一緒にオリジナルプログラムを開発しよう
といってくれたのが、ベネッセ i-キャリアさんであった。

実践事例③

国語の低学力層に対するプログラム



実践事例③

国語の低学力層に対するプログラム

概要（平成27年度から導入）

- ①目的：国語力、文章力、コミュニケーション能力の向上のため。
- ②対象学部学科：全学部・全学科（全学共通）
- ③対象学生：1年次の国語プレイスメントテスト結果の得点が低い300名（留学生は除く）
- ④実施時期：1年次の前学期
- ⑤開講クラス：6クラス
- ⑥1クラスの人数：30名～50名
- ⑦講師：「気づき」を促進させるプロであり、コンプライアンス、モラル、責任感、意欲、講義スキルなどの観点からベネッセの基準を満たし、大学での授業経験が豊富な教員である。
- ⑧到達目標：大学で必要となる基礎的なレポート作成力の育成
- ⑨授業形態：アクティブ・ラーニング形式
- ⑩授業内容：コミュニケーション（聴く・話す）とライティング（読む・書く）から構成し、ベネッセの教材（教科書）を本学オリジナルに作成したテキストを使用
- ⑪学修成果：最初の授業と最後の授業の際に、ベネッセのオリジナルテストを行う。

前学期終了時の単位修得状況

	授業履修者	単位修得者	単位未修得者
合計	200	161	39

実践事例③

国語の低学力層に対するプログラム

ポイント

・オリジナルプログラムの開発

ライティング & コミュニケーション

・オリジナルテキストの開発

プログラムに即した内容

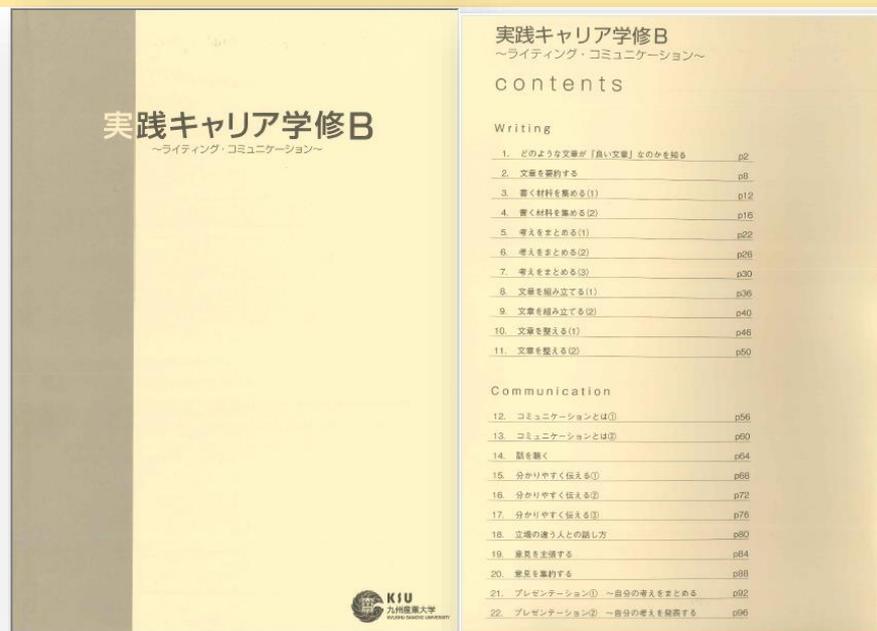
(ベネッセ i - キャリアさんのノウハウを活かして)

・上述のプログラムを実施可能な教員の派遣(独自の研修済)

このプログラムには、独自の研修を修了している教員を派遣して

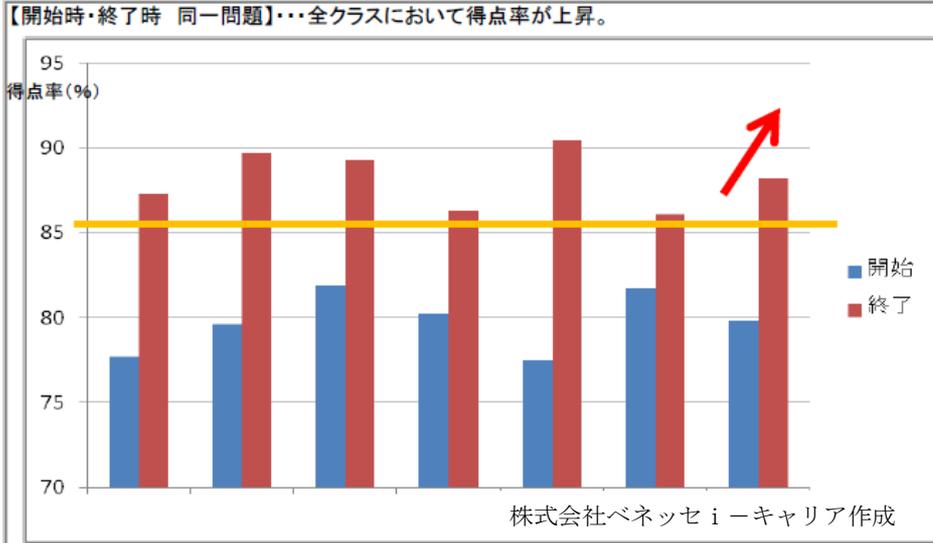
いただいた。カスタマイズもしやすいし、確実に実施できる

授業見学もいつでもできるため、FD・SDにもなる。

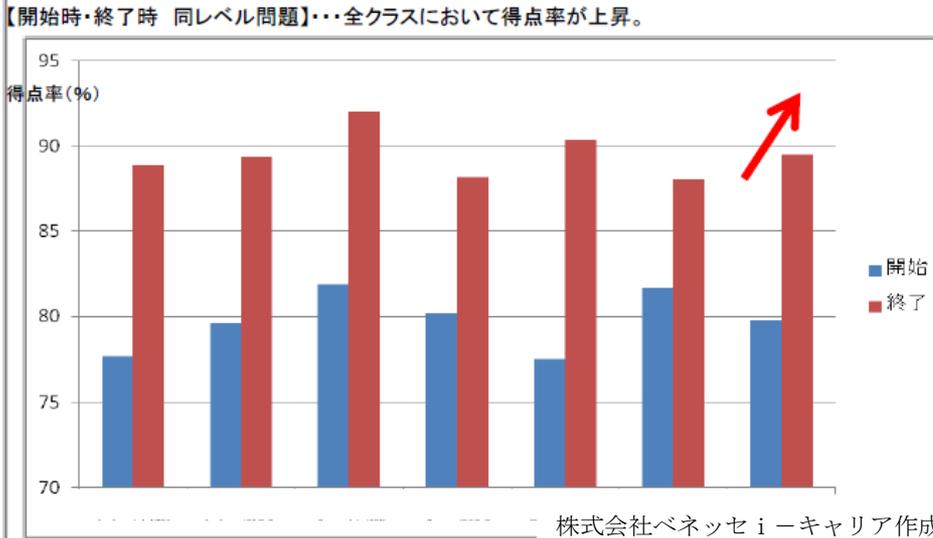


実践事例③

低学力層に対する国語プログラム結果（定量的）



・・・大学入学偏差値45～50の複数大学のマナトレ平均正解率(85.5%)



上表

- ・授業初回に受験した試験と同一問題（全く同じ問題）

下表

- ・授業初回に受験した試験と同レベル問題（レベルが同じ）

結果

- ・どちらの試験で検証しても大幅な伸びを見せる。ただし、言葉の知識に課題。



実践事例③

低学力層に対する国語プログラム結果（定性的）

コミュニケーションシート												
本日のお題: 卒業までに2級建築士の免許を取らなければならないこと。												
私	の	卒業	までに	2級	建築	士の	免許	を取	らな	けれ	ない	こと
は	、	2	級	建	築	士	の	免	許	を	と	れ
に	な	ら	な	い	こと	で	あ	る	。			
と	こ	の	免	許	を	と	り	た	い	か	と	い
建	て	る	こ	と	が	出	来	る	か	う	で	あ
考	え	た	家	か	実	際	に	建	つ	の	を	見
う	れ	し	い	し	、	そ	こ	に	人	が	住	ん
れ	ば	や	り	か	い	を	感	じ	る	。	ま	た
免	許	を	と	る	こ	と	に	よ	り	、	就	職
広	が	る	か	う	で	あ	る	。				
2	級	建	築	士	の	免	許	を	取	る	た	め
天	す	る	こ	と	は	2	つ	あ	る	。	ま	ず
は	こ	の	免	許	に	つ	い	て	調	べ	る	こ
私	は	、	ま	た	こ	の	免	許	に	つ	い	て
知	ら	な	い	。	か	か	ら	こ	の	免	許	を
何	が	具	体	的	に	出	来	る	の	か	、	ど
車	に	つ	け	る	の	か	な	ど	2	級	建	築
い	て	調	べ	た	い	。	2	つ	目	は	、	こ
を	取	る	た	め	に	ど	ん	な	勉	強	が	必
か	調	べ	る	こ	と	で	あ	る	。	こ	の	免
科	目	を	早	め	に	調	べ	、	多	後	の	授
画	を	立	て	た	り	、	勉	強	し	た	り	し
を	な	く	し	て	い	き	た	い	。			
卒	業	ま	で	に	、	2	級	建	築	士	の	免
												許
												を

授業13回目に実施した
コミュニケーションシート

この違いどうですか？

実践事例③

低学力層に対する国語プログラム

副次的な効果も(担当教員からのコメントもあり)

		全体	全くそ う思わ ない	あまり そう思 わない	どちら でもな い	ややそ う思う	そう思 う	肯定 回答率 事前	肯定 回答率 事後	事後一 事前
(1)1. 挨拶、態度、言葉遣いができる	事前	198	0	7	13	107	71	90	91	1
		100.0	0.0	3.5	6.6	54.0	35.9			
	事後	157	0	2	12	89	54	90	91	1
		100.0	0.0	1.3	7.6	56.7	34.4			
(1)2. 人の話を聴き、自分の意見を伝えられる	事前	197	1	25	68	78	25	52	76	24
		100.0	0.5	12.7	34.5	39.6	12.7			
	事後	157	1	4	33	86	33	52	76	24
		100.0	0.6	2.5	21.0	54.8	21.0			
(1)3. グループワークやディスカッションが積極的にできる	事前	198	9	48	83	45	13	29	61	32
		100.0	4.5	24.2	41.9	22.7	6.6			
	事後	156	1	19	41	71	24	29	61	32
		100.0	0.6	12.2	26.3	45.5	15.4			
(1)4. 大勢の人の前で発表ができる	事前	197	39	59	59	29	11	20	53	33
		100.0	19.8	29.9	29.9	14.7	5.6			
	事後	157	5	24	45	56	27	20	53	33
		100.0	3.2	15.3	28.7	35.7	17.2			

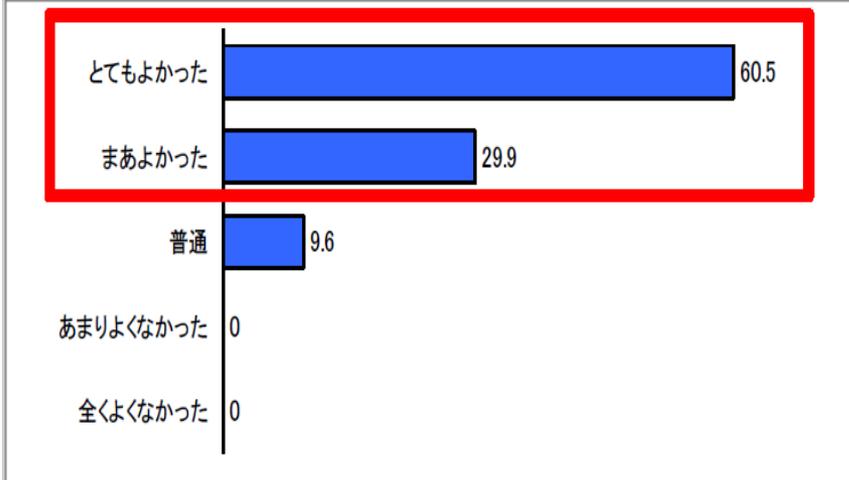
株式会社ベネッセ i-キャリア作成

グループワークや、ディスカッションを積極的にできるようにもなった学生が多く存在している。

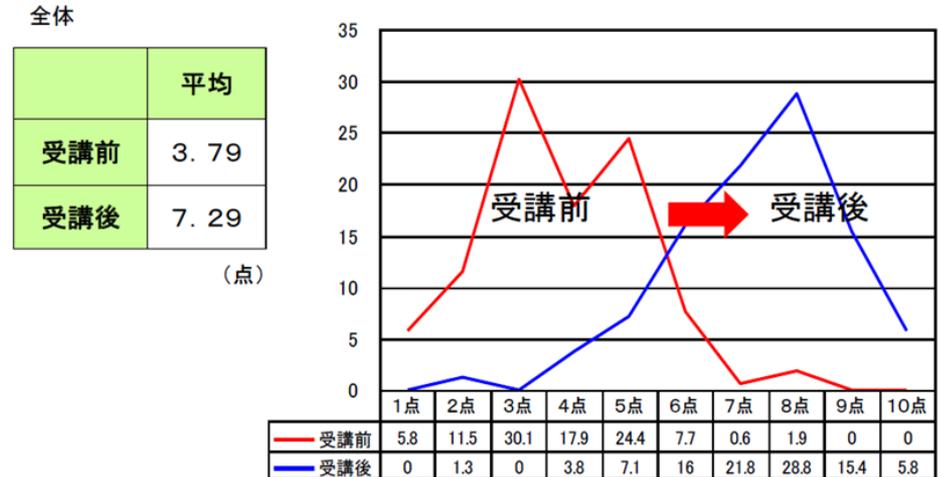
→他の科目の成績向上にも期待できる。

実践事例③

学生アンケート結果も



【受講前と受講後の自分(成長した自分)の数値評価(10点満点)】



【この授業に参加して、自分が成長したと思いますか？】

全体
157名

(%)



強く思う
 そう思う
 どちらとも言えない
 そう思わない
 全く思わない

実践事例③

課題

- ①国語の低学力層の学生全員が、国語科目を履修していないこと。
- ②次年度に向けて、「言葉の知識」も向上するようなプログラムにカスタマイズする必要があること。
- ③低学力層の定義は、プレイスメントテスト結果から300名を抽出しているが、300名が適正なのか否か。
 - ・人数を増やすと、時間割、担当者、予算の関係が生じる・・・。
- ④国語科目の必修科目化をするべきか・・・。
- ⑤国語能力が向上した学生をさらに成長させるためには？
 - ・新しいプログラムの開発？
 - ・それとも継続履修を念頭においた必修科目化？
- ⑥国語能力の向上が、大学で学ぶ上での「基盤」と、本当に言えるのか？
 - ・単位修得、GPAなどの教学IRデータにおいて検証
 - ・カリキュラムの体系性、DPとの関連性など

課題

- ・大学教育の質保証としての共通の成果指標がないこと。
- ・2年間のプログラムが終了するまで、学修成果を可視化することが難しいこと。(どんな成果があったのか、言いにくい・・・。)

今後の展望

- ・現在、ほとんどのコア科目でシラバスの統一化がされているので、それをさらに広げる。
- ・DPに基づいたカリキュラムマップの作成
- ・成果があった国語の低学力層に対するプログラムの充実



ご静聴ありがとうございました。

一ノ瀬 : dai@ip.kyusan-u.ac.jp

